

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------|---|------------|
| ○事業所名 | ラーニングルーム ふぁせっと | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 2月 10日 | | 2026年2月14日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 1 | (回答者数) 1 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 2月 10日 | | 2026年2月14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 25日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 利用者の満足度は、満足しているもしくはどちらともいえないの回答となり、いいえやわからないの回答は0件となった。 | 療育支援プログラムや心理学に基づいたアセスメント、カウンセリングの対応など、専門的な方面での取り組みを行っている。また、野外活動や感覚統合の取り組みを月1ずつ行っている。 | 開設7年になり、当事業所の特徴が広く理解されてきたといえる。当所を選んで通所される方が増えてきたが、送迎者への説明が十分にできるよう、職員への研修を進める。 |
| 2 | 生活空間の広さや、適切な支援の提供の項目では、満足度が高い。保護者のニーズや気持ちに寄り添い適切な支援が提供できていると考えられる。 | 3ヶ月ごとの保護者面談や、毎年のアセスメントの更新により、その時点における児童に最も適切な支援を再確認している。また、学校や医療施設との連携も行っている。指導員同士での情報共有や勉強会も定期的に行っている。 | 支援内容に関しては高い専門性が必要となる。今後はさらに専門的な支援やアセスメントが作れる人材の育成や、保護者向けの心理学講座の開催をしていく。また説明ができるよう支援員の研修を進める。 |
| 3 | 事業所の公表している支援プログラムと提供されている支援が合っているか、ニーズや課題が分析された上で支援計画に反映されているか、という内容に関しては20件全員がはいと解答した。 | アセスメントに基づく支援計画の作成や、面談、ソーシャルワーカーとの連携を適切に行い、保護者にしっかりと子どもの特性を説明した上で契約を結んでいる。 | 繰り返し根本の法人理念に立ち返り、方向性の確認を行っている。また、さらに正確なアセスメントを作成できるようにするための外部への研修も積極的に行っている。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 保護者会開催や保護者同士の交流機会の有無については、肺と答えた人は半数だった。 | 本事業所は基本的に1対1の個別療育を行っているため、ほかの事業所や外の子どもの交流は少ない。野外活動に参加している利用者は理解していると思われる。 | 土日を使用したイベントなど充実する。、合同の療育などを合間に挟むことでソーシャルスキルを育てることができる。 |
| 2 | 避難訓練や安全対策についての理解の回答は半数程度だった。 | 指導員内では行っているが、子どもが居る時間での避難訓練は行っていない。 | 今後、子どもとの避難訓練を検討する。また訓練実施を保護者への開催報告などを広報する。 |
| 3 | | | |